

教材活用シリーズ 第 163 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

漢字と語句はこの一冊でマスター！

(株)学宝社
『単元別漢字マスター』



(株)学宝社
編集部 国語科

1. はじめに
弊社の漢字教材『単元別漢字マスター』は今年度、漢字と語句の学習が一冊でできる教材に生まれ変わりました。
「中学校学習指導要領」の「〔知識及び技能〕の内容」では、漢字を「文や文章の中で使う」ことが記されており、「漢字」と「語彙」の学習は密接な関係にあると言えます。とはいえ、現場の先生方からは、なかなか語句の指導にまで手が回らないというお話をしばしばうかがいます。そのような先生方のお話をふまえ、弊社は「漢字と語句を一冊でマスターできる」をコンセプト

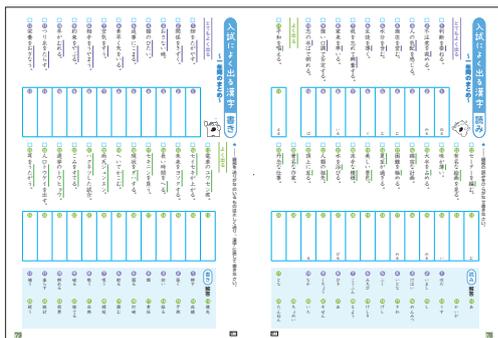
トとして、本書の全面改訂を実施しました。次節からは、『単元別漢字マスター』がどのようになっているのか、また現場の先生がどのような本を使用されているのかをご紹介します。

2. 漢字を「マスター」できる仕組み — 反復学習 —

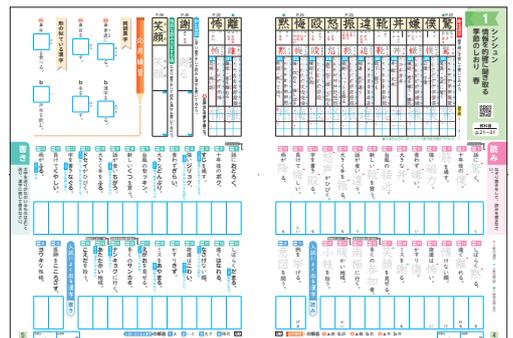
漢字の「読み」「書き」を定着させる仕組みとして、本書では「反復学習」がキーワードになると考えました。本書には漢字の反復学習ができる工夫を随所に盛り込んでいます。

まず、通常回の右ページは、なぞり書きをしてから漢字の読みを答える形にすることで、漢字を書く回数を確認しました。また、右ページとも左ページともに解答欄を横一列に並べることで、一度記入した後も解答を隠して繰り返し学習できるようにしています。

次に、本書では「入試によく出る漢字」を通常回と巻末の特集回の双方で出題しています。通常回では「読み」と「書き」を各二問出題しており、特集回では通常回の問題の復習をしたり、入試で出題された漢字を頻度順に学習したりできるようなっています。通常回と特集回がリンクすることにによって、学習が一度きりで



▲「入試によく出る漢字」

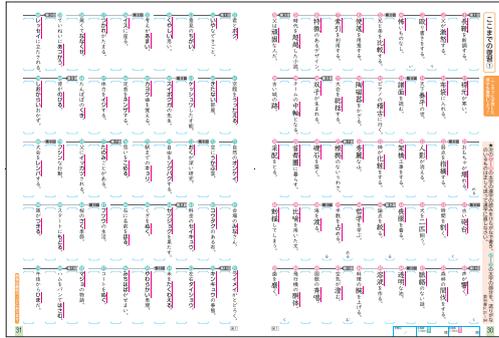


▲通常回

は終わりません。

さらに、復習回である「ここまでの復習」では通常回で学習した新出漢字を出題することで、定着度が測れるようになっていきます。また、今年度からの新たな企画として、小問毎にその漢字を学習した回次番号を示しました。それによって、「ここまでの復習」で間違えた漢字を通常回に戻って復習するよう促しやすくなっています。

以上のように、本書は随所で漢字の反復学習ができるようになっていきます。反復学習という仕組みによって、小学校で学習した漢字及び中学校で学習している漢字の「読み」「書き」が定着していくと考えています。



▲「ここまでの復習」

3. 語句を「マスター」できる仕組み

— 語注・「応用練習」 —

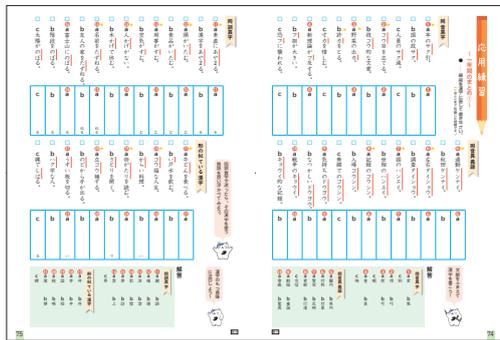
なかなか先生方の指導の手が回らないとされる語句の学習について、本書では語注と「応用練習」の二点からアプローチを図りました。

語注は語句の意味や類義語・対義語などの内容を、通常回の左ページの問題に付記していま

す。今年度の改訂では、入試で問われやすいことわざ・慣用句・四字熟語などにも必ず語注を入れ、その意味を掲載するようにしました。語注を掲載することによって、生徒は漢字を学習するなかで語句の意味を目にする機会が増えていきます。目にする機会を増やし、語句の意味などにも注意を向けてもらうことが狙いです。

「応用練習」は各回の新出漢字を扱う形で、さまざまな語句の問題を出題するコーナーです。同音異義語や同訓異字の問題では漢字の違いに注意を向け、慣用句やことわざの問題では語彙を広げてもらうことを意図しています。

前述の「入試によく出る漢字」と同様に、「応用練習」も通常回と巻末の双方で出題しており、学習に繰り返し取り組むことで語句内容の定着が図れるようになっていきます。



▲「応用練習」

本書は語注と「応用練習」の二点を、語句をマスターできる仕組みとして設定しています。本書を使用して学習することが自然と語句の学習につながっていくことを意図しています。

次節では、前述の仕組みを持った本書が、現場の先生方にどのように使用されているのかを

ご紹介します。

4. 本書の使用例

現場の先生方からもっともよくうかがう本書の使用方法は、「授業の冒頭で上段の新出漢字欄の解説をした後書き込みをさせ、残りを家庭学習として取り組ませる」というものです。家庭学習として取り組む際は、市販のノートなどに書いて提出させる先生もいらっしゃいます。

また、付属の教師用CD-ROMには、本書で学習した内容の定着度を測れるプリントが三種類も用意されています。そのなかでも、本誌の通常回一回につき一枚を収録した「確認ドリル」は、各回学習後の小テストとして使用されるケースが多いようです。「本誌に取り組めば小テストで点数が取れる」ことを生徒に呼びかけ、生徒の漢字学習へのモチベーションにつなげていく先生もいらっしゃいます。

5. おわりに

繰り返しご紹介してきた通り、本書は「漢字と語句を一冊でマスターできる」ことを目指した漢字教材です。生徒が本書を使って学力向上を図るのはもちろんのこと、先生方のご指導にも資する一冊となるよう制作しました。

国語はすべての教科、ひいてはあらゆる活動の基盤であるとされています。漢字・語句の知識は、さらにその基盤を成すものであると言っても過言ではありません。『単元別漢字マスター』がその基盤形成の一助となることを我々は願っております。